

第2回神戸市外郭団体の経営評価に関する委員会議事要旨

1. 日 時 : 平成 27 年 11 月 16 日(月) 10:00～12:00
2. 場 所 : 1 号館 23 階 1234 会議室

3. 要旨

- ・神戸市外郭団体の経営評価に関する委員会規則第8条に基づき、会議の公開が確認された。
- ・委員長より議事に入る旨の発言があり、事務局から会議資料の説明を行った。
- ・会議における委員の主な発言は以下のとおりであった。

(意見交換)

【財務状況等の概要について】資料1、2

- ・事務局より資料1について説明を行った。また、平成26年度に赤字となっている団体はその理由を説明した。

- (公財) 計算科学振興財団については、平成25年度に補助金を受けて構築した次期スパコンに関する減価償却によるため赤字となっている。
- (公財) 神戸都市問題研究所については、基金を取崩して神戸市に貢献する事業を実施することとなっているため、3年連続赤字となっている。それ以外の経常的な収支は黒字となっている。
- (公財) 神戸いきいき勤労財団については、平成24年度に公益事業が黒字となったため、収支相償の考えに基づき赤字を出して公益サービスの充実に充当している。
- (一財) 神戸市地域医療振興財団については、手術室増室にあたり患者受け入れの調整を行ったため赤字となっている。
- (社福) 神戸市社会福祉協議会については、基金を取り崩して事業実施しているため3年連続赤字となっている。
- (一財) 神戸みのりの公社については、経常的には黒字となっている団体であるが、ぶどうの生産計画の見直しに伴い、基金の取り崩しを行っているため赤字となっている。
- くつのまちながた神戸(株)については、不動産賃貸業での赤字が大きく、2年連続赤字となっている。シューズの販売促進事業は好転気味である。
- (一財) 神戸市水道サービス公社については、指定管理事業のメーター取替業務と検針業務が競争化されたことによって収益が減少しており、2年連続赤字となっている。平成27年度以降は職員給与と雇用制度の見直しで好転するという見込みとなっている。

【ヒアリング団体の決定】

- 財務状況が赤字の団体をヒアリング候補に設定する考え方は良い。(公財) 計算科学振興財団のスパコンの減価償却費については会計処理上やむを得ない。(公財) 神戸都市問題研究所と(一財) 神戸みのり公社は基金を取り崩して当初の計画どおり正味財産を減らしている。以上の3団体は、財務の観点からはヒアリング団体として抽出しなくてもよい。

抜本的な採算性の改善見通しに疑問がある団体は、(一財) 神戸市地域医療振興財団である。ただ、神戸市民病院機構と統合する予定があるので、現時点でヒアリングする必要がない。

(社福) 神戸市社会福祉協議会とくつのまちながた神戸(株)と(一財) 神戸市水道サービス公社については、ヒアリング対象団として、今後どうするのか議論してもよい。

あとは、赤字ではないが、収益が3年間で悪化傾向にある団体として、(一財) 神戸在宅ケア研究

- 所、神戸市道路公社、神戸空港ターミナル（株）、（公財）神戸市スポーツ教育協会の4団体がある。どのような状況によるものか確認してもらいたい。そのうえで、疑問が残るということならヒアリングの対象としていきたい。
- 資料を確認した上で、財務状況からヒアリングを行うべきだと考える団体は、くつのまちながた神戸（株）とする。昨年度、監理に関する検討委員会でヒアリングを行ったので、赤字等の状況はだいたい理解しているが、今後どうしていくのだろうかといった観点で本委員会のヒアリングが必要だと考える。
 - シューズ事業については、通販会社のような事業形態なので、市が出資している株式会社だけに、民業圧迫という可能性も考えられる。不動産賃貸業の赤字により、財務的な面から見ると厳しいと思うが、昨年度のヒアリングの中では、百貨店の販路開拓というものが軌道に乗ってきて、ネット販売等の事業が好調なら経営的には回っていくのかとも感じた。株式会社なのでキャッシュが回らなければ追加出資する、又は貸付するということになるが、株主から見てそれだけの値打ちがあるかどうかといったことになる。
 - （一財）神戸市水道サービス公社については、水道メーターの取替が主要な事業だったが、指定管理者の選定が競争に出されていることで財務状況が悪化している。市として公社が事業を持続けるということに意味があると考えているのか、公社の採算が悪くなった場合に市が補填まで行うのか、その他の事業について市として役割があるのかといった点を考える必要がある。
 - 様々な経営指標を出していただいているが、まだ全団体を見切れていない。この経営指標の中から気になる団体を抽出し、ヒアリング候補とする。
 - ヒアリングの方法については、まず財政が悪化している団体を優先してヒアリングしていく。
 - 財政的なヒアリングの際は、市が支えていくだけの存在意義があるか、どう赤字を改善していくべきなのか、所管局の意見も伺いたい。
 - また、悪い団体ばかりでなく良い団体もヒアリングの対象としていきたい。さらに、機能の拡充といった目線で、強化していくべき団体があればヒアリングの候補として考えていきたい。
 - 社会福祉に関する外郭団体では、痴呆の問題や介護の分野において、民間ではできない部分を担っている。そういった外郭団体の役割や意義を明確にすることも大切だと考える。
 - 民間では採算性がないと捉えて、外郭団体が実施する値打ちがあるなら、市が補助金を支出することも考えられる。
 - （一財）在宅ケア研究所について、今後さらに高齢化が進んでいくので、介護事業の研究は必要だと思う。また、団体は現状の何が課題でどのようなことがしたい、といったことを市へ働きかけているのか。さらに、この分野に関して民間事業者のけん引役や、事業者全体の底上げを行うような研修を行う等の機能を持っているのが重要である。
 - （公財）こうべ市民福祉振興協会について、しあわせの村の管理運営事業は自治体としては指定管理といった手法をとっているが、実際のオペレーションについては個々の民間事業者に流れており、残された部分で小さな事業をいくつか実施していることが役割となっている。今後は、社会的にケアや痴呆の問題を取り上げて、いかに効率よく効果的にサービスを提供できるかといった課題解決が求められている。実際に現業を行っているこういった団体が、もっと力を入れてやってくれることが重要だと考える。
 - 保健福祉局が所管している3つの団体の役割をどのように分担しているのか、併せて聞くことができればよいかもしれない。
 - 他に新しい効率的な機能の統合といったことを考えるなら、不動産管理という視点や観光といった切り口で見ると、機能的に共通している内容が見えてくる。（一社）神戸港振興協会についても切り口によれば観光事業といえる。（株）OMこうべが実施している海上アクセスについても、

観光客が乗るという考え方をした場合は、観光といった切り口で共通しており、（一社）神戸港振興協会とのシナジー効果を持っていると言えるかもしれない。

【ミッション（案）の概要について】資料3

事務局より資料の説明

- ・評価様式2-1より局から提出された5年のミッションを抜粋したもの
- ・【】で記載されているのがミッションを達成したと判断する際の指標例

○ミッションの記載内容について、中身がないのか、書ききれていないのか、全体を見せていただいて、上手く表現できていない団体があった。資料については、市民が見たときにわかりやすいものでないといけない。

その他には、同じ局に複数の外郭団体がある場合、どのように各団体が繋がりを持っているのか疑問に感じた。市役所はセクション毎に縦割りに陥りやすいので、場合によっては複数の局が協力して事業を実施すれば、より効果的となる事業もあると考える。

○5年間のミッションについては、本来書けるのに表現ができていないといった問題と、ミッション自体の内容が適切かといった問題があると感じた。また、全体的な傾向として、外郭団体が設立された当時にはミッションが明確だったが、長年組織が継続されていく間に緊張関係が緩くなり、5年間で必要なミッションを局が明確に示せていないのではないかと。

5年間でどういったことに取り組むのか、外郭団体なのでこういったことができるといった民間事業者との違い、局の期待をもっと具体的に書いていただきたいと感じた。

今後の議題となるかもしれないが、時代の経過の中で、求められる役割が変化している事例もあった。

○特に、政策と関連性が強く、民間事業者に対しても影響が大きいといった団体のミッションをしっかり位置付けていきたい。

○バリューについては、市から与えられるミッションを実現する際に、市民にとってはどのような価値が提供されるのかを記載してほしい。

○MVTシート（様式2-1）では、2020ビジョン及び部門計画との関係についての記載欄があるが、半分程度の団体が空欄となっていた。

○市の計画のどこにも書いていないのに、外郭団体にはこうしてほしいというミッションを与えているのはどうなのかと感じた。

○MVTシート（様式2-1）については、もう少し表現方法等について書き直しを行い、外郭団体に対してもっと具体的に5年間で何を求めるのかを記載していただく。採算性があっても補助金事業を合わせて実施している場合には、ミッションをきっちり記載していただくことが必要である。次に、与えたミッションは、外郭団体でしかできないのか、民間でもできるのかといった議論になる。さらに、外郭団体が持つ機能について、組織を分けておく必要がないものあるいは、一緒にした方がスケールメリットがあるものについても議論すべきである。以上の内容を踏まえながら、各外郭団体が市民に対してどのような価値を提供するのが重要になる。

【次回スケジュール関連】資料4

○次回は12月中旬と下旬に第3回と第4回と記載しているが、場合によっては同じ日の開催となる。1月中旬にミッションの関係団体ヒアリングを行い、2月にまとめの委員会を開催する。

○前回議論となっていた評価の枠組みは今年度中に確定させる。

【決定事項】

- 財政的なヒアリングの対象としては、くつまちながた神戸（株）、（一財）水道サービス公社、（社福）神戸市社会福祉協議会として、ミッションの関係を整理した上で、対象団体がプラスされる。また、業績が下がってきた団体の理由説明を事務局より聞いた上で、ヒアリング対象を決めていきたい。業績が下がってきた団体とは、在宅ケア研究所と道路公社、空港ターミナル、スポーツ教育協会の４つである。
- 委員長の提案により、本委員会のヒアリングについては、個別団体の競争上の利益の問題があるので委員会規則８条により非公開となった。